



善光寺海外留学僧派遣育英会・第一回総会

人様のために働く  
かせていただく

《出席者》

佐藤 俊明（司会）  
黒田 大圓  
田中 智誠  
安井 隆同  
国安 大智  
梅田 尚平

《発言順・敬称略》

—昨年に発足した善光寺海外留学僧派遣育英会は、

昨年春、黄檗宗・田中智誠師、浄土宗・梅田尚平師を  
タイ国ワット・パクナムに派遣し、秋には、アメリカ  
留学僧派遣の事前準備のため、国安大智師をニューヨ  
ーク禅センターに送り、今年は、カルカツタ大学大学  
院士過程在学中の浄土宗・安井隆同師をインド留学僧  
に決定し、曹洞宗・河内義宣師をロスアンゼルス禅セ  
ンターに、曹洞宗・中野良教師をスリランカケラニア  
大学大学院研究員に派遣しました。

安井・国安の両師が休暇で帰国されたので、去る八

月二十八日、在米中の河内師と中野師を除く四人が善

光寺に会し、第一回総会を開催する機会を設けました。

当日の座談会の概要は次のとおりです。



佐藤俊明老師

佐藤 本日は、第一回の総会を開くことができ、タイ、  
インド、アメリカへ留学された四人の皆さんにお集ま  
りいただくことができたことは大変意義深いことだと  
思います。皆様方それぞれの経験をここでお聞きでき  
ることを楽しみにしております。

方丈 ではまず、タイに行かれた田中君よりお話をう  
かがいたいと思います。

田中 この育英会に応募し、幸いにもバンコクの寺で  
修行させていただきました。タイ国、またはビルマな

どの南方仏教の姿というのはまだあまり日本に知られていないようなのですが、その違った姿に出会い、感銘を受けたその経験を、今後生かしてゆきたいと思います。

方丈 参考になつたことを聞かせていただけますか。



黒田大圓方丈

そしてまた、毎朝托鉢に出かけることによつて、小乗の比丘のあり方を、自分の実践を通して見ることができたと思います。こういった経験をどう生かしてゆくか、ということが自分に課せられた課題だと感じております。

方丈 安井君はインドを数回訪れていらつしやるわけですが、そのインドとのつき合いの中で、何か心に残つたこと、日本の人々にぜひ伝えたいと思うことなどありましたらお聞かせ願いたいのですが。

安井 私自身、日本の仏教を学び、その中で歩ませていただいているわけですが、日本の仏教というのはどうも、学が栄えて道が滅びるきわみにあるのではないが、という気がするのです。そこで私は、インドではお釈迦様が歩まれた道を私自身も自分の足で歩くことによつて、お釈迦様が何を考えながらどのような気持ちで歩まれたのかを感じとろうとしたわけです。その旅の途中、貧しい村で一夜の宿をとつた時のことですが、私を泊めてくれた家の母親が病気だと言つうんです。

田中 最初は右も左もわからない状態で厳しい戒律に従つた生活に入りこんだのですが、生活してゆくうちに、生活形態が自分自身のものとなつてゆきました。

そして、私に、日本から来た坊さんならば病気がなおるようすに祈りをささげてくれ、というのです。私は仏教の坊主ですよ、と言うと、いや、それでもよいから、

日本のお経でも何でもよいからあげてくれというので、般若心経を心からあげさせていただきました。それを家族のみんなは非常に喜んでくれたのですが、そこに私は宗派を越えた祈りというものを見たように思います。この祈りというのは、彼らの日々の生活の中に深く根をおろしており、朝日が昇る時、井戸の周囲をまわりながら、また夕暮時に焚かれる香とともに祈りがささげられるのです。貧しい食事の前にも、少ない穀物を小鳥のために庭にまいて祈りをささげる彼らの姿に、何教、何宗であるとかいうことを超えた祈りの原点を見た気がします。村々とをまわりながら、そういふた、文字も読めない人びとの、人間の力の及ばない、人間の力を超えたもの、神とか仏とかいったものに対する真摯な祈りの姿に非常に心をうたれ、おしえられた気がします。

方丈 国安君は、アメリカでどのようなことをお感じになりましたか。

国安 私の経験は、ニューヨークの限られたコミュニティの中のものであり、その視点からしか話すことはできませんけれども、アメリカで今、「禅」というのは非常に広まっています。またニューヨークというところは、中国、タイをはじめとする世界の仏教が集まっているところで、それに加えてキリスト教・ユダヤ教などが、ごちやごちやに存在しているわけなのです。ニューヨークだけでも、メディテーション・センターは何百もあるのですが、日本の禅に関して言えば、修行の第一段階を終えられたユダヤ系アメリカの方がコミュニティ形式の禅の修行道場をつくられました。方丈 コミュニティと言いますと、共同生活の場というようなものですね。

国安 はい。その中では一緒に生活するということが本当に大切に考えられており、日本人が誤解をしていましたのではないかと感じることもたくさんありました。

**方丈** 確かに異なる文化・宗教を持つおられる外国の方々に出会い、日本人であり、仏教徒である私どもが、私達の本来あるべき姿に気づかされることはありませんね。そういう、出会いの中で感銘を受けたというような経験が何かございましたか。

**田中** そうですね。戒律を守ることに関して、

から雨やどりができそうな場所までつい小走りになつてしまつたのです。しかしタイの坊さんたちは、雨が止むまでバスを降りようとせず、もう一度循環するバスにそのまま乗つていたということがありましたね。

**方丈** そういう姿勢というのは「歩きながらも動中に静あり」ということ、つまり歩いてはいるが、心は動いていないのだ、ということにもつながるかも知れませんね。今までのお話を聞いておりますと、タイ・インド・アメリカの仏教僧、または一般の人びとの姿勢から、我々が学ぶべきところは大いにあるようです。

## 修行の在り方

では私たちの修行のあり方ということに関しては、どのような心がけでのぞんだらよいか、理想的な修行とはどんなものか、お考えのところがありましたらお聞かせいただきたいと思うのですが。

**安井** 仏教の修行にもさまざまあると思います。その中でも型にはまつた修行と型のはずれた修行と分ける



田中智誠師



安井隆同師

国安 私も基本的には、安井さんがおっしゃられたように働かせていただく、ということが大切だと思います。私の体験したコミュニティでの生活の中に、ベーカリー、パン製造ということが含まれていたのですが、これはワークプラクティス（作業の実践）とはどういうことが、人生とはどういうことか、また禅とはどういうことかという二つの関連するものとしてとらえ、はどちらもそれぞれ必要であり重要であります。

また、人と違った、変わったことをやらせていただくのも大切な修行ですけれど、自分が現在ある中で、自分に与えられたことを精一杯やらせていただくというのが一番の修行だと思います。人様のために働くかせていたら、仕事をやらせていただく、という姿勢が非常に大切な気がしますし、それが私自身の修行であると考えております。

国安 私も基本的には、安井さんがおっしゃられたように働かせていただく、ということが大切だと思います。私の体験したコミュニティでの生活の中に、ベーカリー、パン製造ということが含まれていたのですが、これはワークプラクティス（作業の実践）とはどういうことが、人生とはどういうことか、また禅とはどういうことかという二つの関連するものとしてとらえ、みんなで力を合わせることの大切さをくり返しへミーティングでも強調してきましたね。この毎日働くということは、もうけとは関係なく、また休みたい時には自由に休んでよいわけですが、とにかく日々働くということを通して、禅とは何かを体験的に把んでゆくという修行のひとつの方だったわけです。

佐藤 つまり作務、普請ですね。「一日作されば一日食わず」これが今アメリカに生きている。

梅田 タイの小乗仏教の戒律の厳しさというのは、それを形式として守るだけでも最初は大変でしたが、タイの国内にいる時は周囲からそれを守らせてくれる

という雰囲気があるわけです。ところがタイの外に出ると、今度は自分から守らなくてはならないわけで、そこでは戒律に対する自分のしっかりとした態度が求められるのだと思いました。

方丈 アメリカにおいて作務を重点的にやつているというお話をでしたが、これは中国のと非常に似ています。中国の禅との関係はどうでしたか。

国安 中国禅の道場もニューヨークにはたくさんありました。アメリカの禅道場の住職というのは、修行を

したアメリカ人である場合が多いのですが、その修行というのも、曹洞禪のみを修めるというよりも、中国禪、チベット仏教、大乗小乗などさまざまな要素を取り入れているようでした。それらのよいところをとり入れ、アメリカの文化や生活に適合させているのが禅コミュニティの生活の中にうかがえましたね。ですから、戒律や厳しさということも、長い歴史の中で形成された型にはまつたものではなく、我々の考えているものとは多少異なるものとして理解されていたのではないかと思います。

## 二十一世紀の仏教

佐藤 祈尊の弟子たちが、祈尊が具合が悪いと聞いてクシナガラに来る途中、曼陀羅華を持ったバラモンに会い、祈尊が七日の前に亡くなつたことを聞くわけです。異教徒の持つた曼陀羅華が、どうして祈尊の死を告げる意味をもつてているか。バラモンが祈尊の死をうみてているか、安井君おうかがいしたいんですが。



国安大智師

安井　まだ勉強不足でよくわからないのですけれど、その逸話に表現されていることは、現在のインドにおいても見られることがあります。インドでは仏陀は聖者としてとらえられていますし、仏教はヒンドゥ教の一派であるとされています。ですから、何教徒であつても、求道者に対する尊敬の念をこめてあつかいますし、そういう意味では異教徒に対する壁はとりはらわれているといつてよいと思うのです。確かにヒンドゥ教徒とイスラム教徒の衝突ということはありますか、親子、兄弟でもけんかはするわけですか、いつもいがみあつてるわけではないと、インドでの経験から感じたわけです。そのいい例が、カルカッタにおいての故インデイラ・ガンジーの一周忌の法要だつたと思うのです。この時は、私も日本の仏教僧として招かれたのですが、ここにはインドの全ての宗教、ヒンドゥ教、イスラム教、ジャイナ教、ゾロアスター教、シーカ教、キリスト教の代表者たちが集まり、それぞれの教えに基づいた祈りをささげておりました。イン

デイラ・ガンジーはシーカ教徒に殺されたというのに、シーカ教徒の僧も声高らかに祈りの言葉をささげておつたのには驚きましたけれども、そこにこそ、宗派を越えた、インドの宗教の悠久の流れというものがあるような気がいたしました。

方丈　どうも日本はそれと比べると、宗派にこだわり、自分だけを認めさせようという意味が強いようになりますね。もつと大らかな気持ち、釈尊の気持ちを生かすということなしには、世界の平和などは達成されないでしよう

では、二十一世紀に向けて、我々はどのようにしなければいけないか、ということをお聞かせ願いたいのですが、どうでしよう。

国安　今方丈様がおつしやられたように、日本では仏教が宗派に分かれてしまつていてるという現状だと思います。しかし、アメリカでは、禅そのものとして受け入れられており、道元を勉強した人が日本に興味を持ち、日本に行つてみたいという気持ちでいるわけな

のです。そういうところから考えてみますとやはり宗派にこだわらない、また理論ではない人と人との関係を大切にしてゆく、ということは重要だとおもいますね。

田中　日本にもキリスト教の宣教師の方はたくさんいらっしゃるわけで、また最近カソリックと禪の間の交流も持たれているようです。カソリックの宣教師の方

々は、仏教をとり入れるためにキリスト教のことばで学んでおられるようですが、これと同じことが、仏教

僧にも必要ではないかと思うのです。サンスクリットの語源は、ギリシャ哲学にも通じますし、キリスト教について勉強する、ということも、これから仏教の国際化においては必要なことになるのではないでしようか。

方丈　宗派を越えての集まりということで世界宗教者会議などというものが開かれているようですが、これはどうも長たる方々だけが集っているだけで、本当の交流、国際、国内を含めての交流という意味ではまだ

十分に機能を発揮していないと思うんですね。そこで我々としましても、さまざまな方々の御力添をたまわりながら、大変難しいことではあるんですが、将来に向けて、やはり宗祖を通して釈尊に還るという、世界がひとつになるという夢を持つて、国外で得たことを生かしていただきたいと念する次第でございます。

### 抱負を語る

佐藤　方丈さんは前々から宗祖を通して釈尊に還れとということを強調しておられ、まだご自分もタイやアメリカで修行なさつて、やはり海外に留学して視野を広げなくちやいけないという認識をもつてこの育英会をつくられたわけです。そこで、黄檗宗、浄土宗などの、宗門外の方が応募され派遣されたというのは、セクト主義にこり固まっている日本仏教界にとつて大変よい結果だつたんじやながろうかと思うんです。ですから、今後も、皆さんのご協力を得まして、宗派を越えた本当の仏教を善光寺から打ち樹ててゆこう、と理想に燃

えておりますので、皆様も海外で積まれたご研鑽をお役立て下さいますことを希望致します。

方丈 では最後にお一人ずつ今後の抱負を述べて頂きましょう。田中君、如何でしょうか。

田中 今の時期は、自分自身に投資する時代だということ、そのことを大切にしたいと思います。

梅田 日本は今非常に経済的にも恵まれておりますし人の考え方、物質的なものより精神的なものへの移行があると思うんですけれど、国際的な向きを目指す

ということで、最終的には全世界の平和ということを目指して、力は小さくとも、自分自身も何らかの形で役に立つてゆきたいと思つております。

安井 私はインドで三年と少し学ばせていただき、来年七月ぐらいには帰国の予定なのですが、私はこのインドでの三年、四年の経験によつて何かまとまつたことをしようとは全く考えておりません。ただ、今まで日本に帰つて来た時は、初めて仏教の門に立つというような気持ちで物事に対処したいと思つています。現在の段階は広大な荒れ地を耕したという状態で、日本に帰つてから何の種をまくか、そしてそれが二十年、三十年の後に一輪でも花が咲けば、それが善光寺さんへの恩返しになるのじやないかと思つております。

国安 私は、まだまだ仏教についても、日本、海外についても勉強不足ですし、これからロンドンにも修行に行つて参ります。一日一日を精一杯生き、自分を忘れることができたら最高だなと思います。

方丈 今日は皆様大変ありがとうございました。では



梅田尚平師

最後にご老師よりひと言お言葉をいただきたく存じます。

佐藤 幸いなことに、御縁がありまして皆様には善光寺海外派遣留学僧として勉強をしていただいたわけで

す。今後も善光寺は引き続き海外に留学僧を派遣するつもりであります。この育英会の基礎をつくられるのが皆様でございますから、育英会の発展のためにお力をいただきたいと思つております。



